

平成15年度 岐阜県高等学校新人バスケットボール大会  
 兼 東海高等学校新人バスケットボール大会県予選会  
 大会最終日:平成16年2月8日(日)  
 会場:岐阜メモリアルセンターふれ愛ドーム

## 男子の部

<審判>

5位決定戦 岐阜総合 91  $\left[ \begin{array}{l} 32 - 21 \\ 20 - 27 \\ 24 - 19 \\ 15 - 17 \end{array} \right]$  84 中津川工 小池匡弥・清水潤

決勝リーグ 長良 111  $\left[ \begin{array}{l} 30 - 18 \\ 31 - 18 \\ 37 - 19 \\ 13 - 31 \end{array} \right]$  86 岐阜農林 小牧秀則・藤浪元明

両チームともオールコートマンツーマンでスタートする。長良は 浅野の連続3点シュートを皮切りに、二村の速攻、太田の3点シュート、秋田のゴール下と、全員が次々とシュートを決め、完全にゲームの主導権を握る。岐阜農林もディフェンスを2-2-1ゾーンプレス、1-2-2ゾーンと変え、中奥、二村のアウトサイドシュートで追い上げを図るものの、長良の勢いは衰えず、前半は61-36と長良がリードして終わる。

後半に入っても長良は 浅野、栗田が次々にシュートを決め、また相手のシュートが落ちたところを着実に速攻につなげ、守っても 秋田がリバウンドを制して、前半のリードを守り切り、大差で決勝リーグ2勝目をあげ、優勝へ大きく近づいた。岐阜農林も第4ピリオドには、中奥、二村の3点シュートで激しい追い上げを見せたものの、前半の失点が大きすぎた。(朝田満依子)

決勝リーグ 斐太 92  $\left[ \begin{array}{l} 30 - 12 \\ 24 - 13 \\ 18 - 19 \\ 20 - 21 \end{array} \right]$  65 岐南工 松野瑞穂・山田祐治

両チームともマンツーマンでスタートする。斐太は 藤岡のドライブイン、北川の3点シュートなど、スピードあふれる攻撃と正確なシュートで着実に点差を広げていく。岐南工も 蓑島のインサイドにボールを集め追い上げを図るが、斐太の高さのあるディフェンスに思うようにシュートが決まらない。前半は、斐太が54-25と大きく点差をつけて終わった。

後半に入ると、岐南工はオールコートマンツーマンで激しくプレッシャーをかけ、村山の3点シュートなどで追い上げを図るが、斐太も落ち着いてボール運び、新名、小池のシュートで相手の追い上げを許さず、互角の展開。第4ピリオド、斐太は主力選手を休ませる余裕を見せ、さらに交代した選手もよく頑張り、前半の点差を守りきって、決勝リーグの1勝目をあげた。(古田憲司)

決勝リーグ 長良 74  $\left[ \begin{array}{l} 14 - 11 \\ 22 - 14 \\ 15 - 24 \\ 23 - 21 \end{array} \right]$  70 岐南工 増田博徳・大江裕之

長良マンツーマン、岐南工2-3ゾーンで始まる。第1ピリオド、長良は 栗田の外角シュート、岐南工は 前田の外角シュート、蓑島のパワープレーで、ほぼ互角の展開。第2ピリオド、長良は 浅野、栗田のペネトレートから 秋田への合わせのプレーが決まり、前半は36-25と長良が11点のリードを奪う。

第3ピリオド、守りの気持ちに入った長良に対して、岐南工は思い切りよくシュートを放ち、野村の3点シュート、蓑島のインサイドプレーがよく決まり、51-49と長良がわずかに2点のリードとなる。第4ピリオド、長良は2-3マッチアップゾーンに切り換え、岐南工の反撃をかわし、最後は長良が 秋田のリバウンドシュート、太田の速攻で勝負を決めた。後藤コーチの熱意ある指導のもと、全員が持つ力を如何なく発揮した長良が念願の初優勝に輝いた。(西脇勝己)

決勝リーグ	斐太	81	$\begin{bmatrix} 15 - 15 \\ 23 - 22 \\ 21 - 18 \\ 22 - 23 \end{bmatrix}$	78	岐阜農林	室谷伸治・相宮俊郎
-------	----	----	--	----	------	-----------

第1ピリオド、両チームとも硬さが見られ、パスミスやシュートミスを繰り返す。第2ピリオド、ようやく斐太は北川の3点シュートやポストプレーで流れをつかみリードする。岐阜農林も激しいプレスディフェンスでボールを奪い、熊崎の3連続3点シュートで追いつける。前半は、38-37と斐太の1点リードで折り返す。

第3ピリオド、斐太は2分で熊崎が4ファウルのため交代するが、藤岡の3点シュートや、北川のインサイドプレーで得点する。岐阜農林も、速いパス回しから3点シュートが決まり、追いつける。第4ピリオド、斐太がリードのままゲームが進むが、残り1分で岐阜農林二村の3点シュートが決まり、ついに同点となる。ここから斐太は、小池が決勝点となる3点シュートを決め、勝利をつかんだ。岐阜農林も粘り強く追いつけたが、最後のシュートが外れ、4位という結果に終わった。(岩永英夫)

## 女子の部

<審判>

5位決定戦	関商工	80	$\begin{bmatrix} 19 - 20 \\ 18 - 5 \\ 15 - 10 \\ 28 - 15 \end{bmatrix}$	50	大垣商	田中昭博・林龍幸
-------	-----	----	---	----	-----	----------

決勝リーグ	岐阜女子	161	$\begin{bmatrix} 47 - 4 \\ 39 - 8 \\ 36 - 6 \\ 39 - 0 \end{bmatrix}$	18	加茂	小野卓也・堀口和人
-------	------	-----	--	----	----	-----------

岐阜女子は立ち上がりからオールコートゾーンプレスで激しくプレッシャーをかけ、相手のターンオーバーを誘っては、服部、宮元らが次々とシュートを決めて完全に主導権を奪う。その後も攻撃の手を緩めず、前半で86-12と大差をつけ、勝負を決定づけた。

加茂はボール運びに苦しみ、なかなかシュートまで持っていけない。堀内がポストプレーで頑張り得点を挙げるものの、第3ピリオドでファウルアウトすると攻撃の糸口を失い、渡辺のシュートのみとなった。結局、岐阜女子がゴール下を支配し、インサイド、アウトサイドのバランスよい攻めを見せ、161-18と大差で決勝リーグの2勝目をあげた。(土本 繁)

決勝リーグ	高山西	63	$\begin{bmatrix} 14 - 11 \\ 18 - 21 \\ 18 - 8 \\ 13 - 16 \end{bmatrix}$	56	県岐阜商	西脇勝己・長屋 貴
-------	-----	----	---	----	------	-----------

立ち上がり、硬さの見られる県岐阜商に対して、高山西は白川、田近がリズムよくシュートを決める。県岐阜商は、柴田(ひ)のリバウンドシュートなどで得点を重ね、その後は一進一退の攻防が続く、前半は32-32の同点で折り返した。

第3ピリオド、高山西は1-3-1ゾーンプレスで相手のオフェンスリズムを崩して、ターンオーバーを連発させる。岩佐がミドルシュートを次々と決めて、50-40と10点のリードを奪って、第3ピリオドを終了した。第4ピリオド、県岐阜商はインサイドプレーで勝負に出て、柴田(朋)、柴田(ひ)のパワープレーで一時は4点差まで詰め寄ったが、相手のプレスを攻めきることができなかった。結局、63-56で高山西が逃げ切り、決勝リーグの2勝目をあげた。(西脇勝己)

決勝リーグ 岐阜女子 110  $\left[ \begin{array}{l} 25 - 14 \\ 35 - 13 \\ 31 - 10 \\ 19 - 13 \end{array} \right] 50$  高山西 棚橋英一・神山元秀

岐阜女子は状況に応じてマンツーマン、2-2-1ゾーンプレスなどチェンジングディフェンスで激しいプレッシャーをかけ、ボールを奪うと素早い速攻につなげ、岩田、富崎、越智が次々にシュートを決める。高山西も田近のドライブなどで反撃するが、相手の厳しいディフェンスに苦しめられ、思うようにシュートが打てない。

後半も岐阜女子の勢いは止まらず、宮元、服部、富崎らのシュートがよく決まり、さらに差を広げた。結局110-50と圧勝して、決勝リーグ3戦全勝で優勝を飾り、東海大会に挑む。高山西もよく走って湯口、巻上が得点をあげるものの、高さ、スピード、シュート力とも及ばなかった。(山田祐治)

決勝リーグ 県岐阜商 84  $\left[ \begin{array}{l} 16 - 5 \\ 16 - 16 \\ 28 - 9 \\ 24 - 11 \end{array} \right] 41$  加茂 下村勝彦・岩永英夫

県岐阜商はスタートからオールコートマンツーマンでプレッシャーをかけ主導権を握る。加藤の速攻や、柴田(ひ)のインサイドプレーでリズムをつかみ、着実に得点をあげる。加茂はディフェンスを2-3や1-1-3のゾーンに変えて頑張り、大澤や堀内が積極的にオフェンスをしかけるが、相手の速いディフェンスに阻まれて、なかなか突破できない。前半は、32-21と県岐阜商がリードして折り返した。

後半に入っても県岐阜商は柴田(ひ)のゴール下シュート、加藤の3点シュート、柴田(朋)のシュートとバランスよく得点していく。さらに松永らがスピードのあるプレーを展開し、一気に勝負を決め東海大会出場の切符を勝ち取った。加茂は本多を中心にチーム一丸となりよく頑張ったが、最後は疲れからか脚が止まり得点に結びつかなかった。(長屋 貴)